EARTH IS MY FAMILY

「アフリカの田んぼ」田うえ いねかり 5月 9月

さいきんバイオねんりょうというねんりょうをとうもろこしで作られているということを知った。ねんりょうが食べ物で作れるということがわかってみんながほしがるから本当に食べ物がほしい国の人たちは食べ物が高くて買えなくなってしまう人がたくさん出てきたのです。私達は田うえといねかりに毎年5月と9月に参加しています。アフリカの田んぼというのは私達が作ったお米を送りなんとかやり繰り国の人達が少しでもう死にしないように願って毎年お米をうえています。同じ人間なのに食べ物に困っている人もいれば食べのこしをたくさんする人もいる。食べれないと困っている人たちがいるのに食べ物をそまつにしているというのはゆるせないことだと思う。もし日本のだれかが食べのこしをすてているとき アフリカでだれかがうえ死にしているかもしれません。私は食べのこしをしないようにがけています。食べ物も必要なものは買わないようにしようと思います。

海岸せいそう 6月

私たちのすんでいる若松では毎年2回(春と夏)海岸せいそうを行っている。6年に春の海岸せいそうに参加した。ひろいきれないくらいのたくさんのゴミがあり夢中でひろってあつめた。でも集めたゴミのほとんどは海にあるはずのないものばかりだった。自転車・こわれた冷蔵庫・あきかん・あきビン・ペットボトル・発泡スチロール・・・。なぜこんなものが海におちているのか? 人間しか使えないもの・人間しか捨てる事ができないものばかりで、なんだかとてもかなしくなった。海をきれいにする事は「ゴミを捨てない」というあたりまえのことでできるはずだ。どうか「海はゴミバコじゃない!」ことを分かってほしいです。

クリーンシティ 6/1

クリーンシティは毎年4月に行われています

私の住んでいる鈴鹿市で「クリーンシティ」という運動がある。クリーンシティというのは鈴鹿市の人たちが集まりゴミ拾いをする事だ。道に落ちているゴミを拾って学校で集める。道ばたにはいろんなゴミが落ちていたこんなにきたないゴミをすてられてきっと地球は泣いているだろう。ゴミもリサイクルできるものはリサイクルできるリサイクルしたらたくさんの資源になる。ポイすてのない町に国に、そして世界になるといいと思う。

エコ"バスツアー"で 7月

鈴鹿市文化振興事業団の"親子バスツアー"に参加しました。その中で"野地巳の川授神社のスダジイ"という大きな木をみました。300年もの間、同じ場所にたち、私たち人間の生活と周りの景色の変化をどんな思いでみつめてきたのだろう? スダジイの前で そう考えていると自然の中にすいこまれていくような思いがして、歴史の重さを感じました。これからもずっと 木を 山を 大事に守り、人間の都合だけで切ってはいけないと思いました。

学校でバザーがありました。バザーというのはいらない物を安く売ってくりかえしリサイクル活動事だ。書道具でも今は使わなくなってすててしまってはもったいないからバザーがあるので"フリーマーケット"と同じような事だ。使わない人→使う人へ いらなくなった人→ほしい人へそういうくりかえしが地球にとって私たちにとって資源をたいせつにするということなのです。これからもバザーをつづけようと思います。

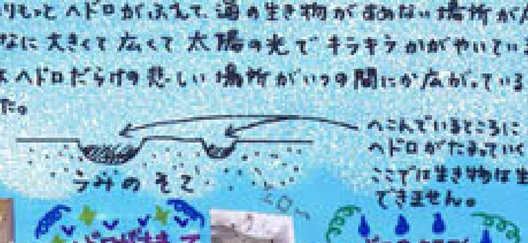
小学校バザー

静岡へ! うみガメバスツアー 8月

海ガメの放流を見せてもらった。放流されたばかりの海ガメはみさなすと足を動きにしたばたさせていた。小さな命が目の前ではばたこうとしていることが分かった。人間が海にゴミを捨てたり海ガメは海に出ることが出来ず海にふれることなく死んでしまう。海に出れたとしても海の中のゴミを食べて死んでしまう。こんなにかわいい海ガメが人間の好きかってのため死んでしまうのはとてもかなしいことだ。これからは海ガメや海のため地球のために海をきれいにしていきたい。最後に私は放流した海ガメに、どうか元気でおとなになってきてほしいと願った。海ガメは人間のためにあるんじゃないと改めてよくわかった。

三重県海洋調査船「あさま」 7月

三重県調査船「あさま」に乗った。伊勢湾の真ん中まで船を移動。伊勢湾のドロを取り調べました。海が深くなっているところはヘドロしか動物がとてもくさく、生き物は何もいませんでした。これから海にゴミがたくさん流され続けると今よりもっとヘドロがふえて、海の生き物がすめない場所が広がっていくそうです。こんなに大きくて広くて太陽の光でキラキラかがやいている海。でも海の底ではヘドロだらけの悲しい場所がいつの間にか広がっている事を初めて知りました。



科学の力でエコロジー 9・10月

●まきまき電池

炭ででんきを作るすごい実験をした。まず食塩水をしみこませたティッシュペーパーまいにちょう炭にまきつける。次は炭にふれないようにアルミニウムはくをまく。どうせんを炭とアルミはくをそれぞれにつなぐ。そしてアルミはくを強くたたくと豆電球が光る。オルゴールでやってもモーターでやっても回るので本当に電気が流れていると分かった。でんちょう炭があったらすぐ電気がおこせるのでとてもいい実験です。CO_2が出ないので地球にやさしいのです。でんちょう炭電池などの地球にやさしいもので作っている電気でくらせる日がくるといいな。

●ヘドロ電池

文化会館へ行って、ヘドロで電気を作れるということを教えてもらいました。海の底のおなヘドロで電気が作れるときいておどろきました。作るまではちょっと信じられなくてウソだと思っていたけど作って電圧計で計ってみたら少しだけど電流は流れていました。

5こつなげるとモーターも回りました。私の身の回りのきたないものやいらないもの それが大切な電気になるなんてとてもすごいと思いました。

忘れては いけない事

私たちは忘れてはいけない。 太陽から命を与えられているということを。
私たちは忘れてはいけない。 海から恵みをうけているということを。
私たちは忘れてはいけない。 山や木がなければ生きていけないということを。
そして地球で命を育くみ、 生活しているのは人間だけではないということを。
命あるもの、次に命をつなげて いかなくてはいけないということを。

けして 忘れてはいけない。

みどりの家をほうもんして 5月

「みどりの家」というゴミをあつめているところがある。スズカハンターというショッピングセンターでペットボトルやかん・あきビンしんぶんなどをあつめてリサイクルしている。そのみどりの家をほうもんした。いち日にとてもたくさんのゴミがあつまってくるらしい。わたしたちのまちだけでこんなにたくさんのゴミがあつまるのだから日本中・世かい中のゴミがあつまったらゴミだらけになってしまう。みどりの家からがのこしゆうな人がはたらいているからだのふじゆうな人がいっしょうけんめいゴミをぶんべつしていた。それを見たらわたしもちゃんときちんとぶんべつしないといけないとおもった。

限りない資源

川越町にあるテラさんに行きました。テラに入るとまず大きな地球儀に気がつきました。その中には少しだけの、黒色の物体がはいっていました。説明をよんで分ると「この地球儀の中に入っている黒色の液体は地球にある限りない資源である」と書いてあった。地球にある資源はこれだけなのかと悲しくなった。この資源は元に戻ることはできないかもしれないけれどこの資源をこれ以上減らないように頑張りたいと思う。みんなが止めよう温暖化。燃やそう資源と強く思い、実行できることが出きたらきっと温暖化は止めることが出きるだろう。資源も増やすことが出きるだろう。

地球には あと これだけの資源が 残っています。→
石油→40年分
石炭→227年分
天然ガス→61年分
ウラン→64年分
この資源がなくなれば人類は滅亡してしまいます

エコプロダクツ 2008 8/6

「ビックサイト」

「富士ゼロックスの人達と…」

12月13日・14日

私たちは今年の5月から約3ヶ月間エコにかんする日記をみどりの小道で書いてきました。毎日書き続けました。そのみどりの小道で受賞して東京ビックサイトで行われたエコプロダクツ2008に招待されました。ビックサイトではエコに興味のあるさまざまな会社が来ていて12月13・14日でエコ活動の展覧会をやっていました。みどりの小道で受賞したお友達が集まってひらかれる環境日記シンポジウムに参加しました。主催者が相談を決めてくれていて私の担当は「富士ゼロックス」でした。富士ゼロックスが担当になったチームの皆さんと話し合えて富士ゼロックスの見学とインタビューしに行きました。富士ゼロックスの人たちは人のために地球にやさしいやさしい品を作ろうと思っています。と言っていました。私もいろいろ地球にやさしい品を考えました。私はコピー機の上にソーラーを乗せて、「ソーラーコピー機」ができたらどうかなと思います。なぜかというと、外に出て行けば雨の日以外、ずっと動いているし、温暖化を「いやだいやだ」と言ってばかりいないで自分のやるべきことをやるのが大切だから私たちにとってやるべきことだと思うからです。みなさんも今自分が出来ることをやって温暖化をくい止め、地球を助けましょう。シンポジウムに三重県から来ている子は私しかいなかったけど埼玉・福岡・長野から来たお友達と「エコ」について考える時間をもらえたことは私にとって大きなはげみになりました。いろんな所で、エコについて地球を助けようとがんばっている皆の気持ちが分かり、とても心があたたかくなりました。エコは1人1人の気持ちしだいで大きくなるものだけど1人だけの力ではなりたたないということをはだで感じました。そして私をまだまだエコの生活を続けないといけないと、強く思いました。地球は私たち人類のお母さんのようなものです。その地球をいつまでも大切にしようと思います。

「インタビュー後の発表」

「賞をもらっている所」

「受賞した時の写真」

ぶんべつゴミばこ

私たちは、すぐできることからはじめようとおもってゴミのぶんべつをするためにゆきさやぶんべつゴミばこをつくりました。燃えるゴミ・燃えないゴミ・プラスチックゴミにわけたゴミばこをつくりました。私が家かえるとゆきさやゴミばこが私の目にはいってくるとゴミぶんべつをしようという気もちになります。

花だんせいもう 5月

ふれあいクラブの花だんせいもうにいってきました。みんなで土をたがやしました。むかしそこにはおちゃわんをつくるこうじょうだったらしく土の中にはたくさんのちゃわんのかけらがまざっていたそれをひろってあつめて花のきれいなものをうえました。くきがぐんぐんそだってほしいです。

自給自足 6月

エコにかをいれるためにアップルのしょくりょうもんだいがよくやっていたので私の家でも自給自足をすすめようとおもった。そこでこのなつやさいをプランターでそだてたらえんがめ・とうもろこしなすびしもうまくできなかったものもうまくできたものもあった。ぜんぜんはもっと自給自足にちかづけるようにどりょくしたい。

今後したいこと

① 今後もいつもエコを心において、行動します。

② 今後はできるだけ私たちの活動をいろんな人に知ってもらい一緒に活動する仲間を増やしたい。

③ 家で雨水をためて水やりにつかってきたが、小学校でも雨の多い日にバケツやペットボトルに雨水をためて、学校で育てているあさがおやヘチマなどの水やりに水道の水を使わず雨水で水やりできるよう先生に提案したいです。

こどもエコクラブ全国フェスティバル	クラブ所在地: 三重 都道府県 鈴鹿 市区町村
	クラブ名: ゆきさやクラブ